

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.48)

「国を知ってもらおうということ」(1)

・・・ライオンの尻尾よりはむしろネズミの頭・・・

9月に入ると、メキシコは緑、白、赤の3色の国旗がいたるところに羽ばたき、ビルなどでは屋上から大きな3色の垂れ幕が下げられる。これは9月15日の独立記念日に向かってのものである。今年は、独立200周年を迎えることと相まって、普段から愛国心が強い国民ゆえ、その意識も最高潮になり国旗の数もいつもより多く見られるのではなかろうか。

国旗掲揚に代表される、国威昂揚の方法は、国の施策や政治体制、また国民の意識の相違によって夫々異なるだろうが、今回の報告は、そんな難しいややこしい話をするつもりはなく、庶民レベルでメキシコがどのように情報発信をしているかを、過去にインターネットや報道されたものを、私のアーカイブスからいくつか取り出してシリーズでレポートとしたい。(写真等もインターネットから借用)

1. 女性の世界一・・・メキシコの女性は、考えもしっかりしています

- ① 今年ミス・ユニバース世界大会が、米ネバダ州ラスベガスで開催され、メキシコ代表のヒメナ・ナバレッテさん(22)が優勝した。ナバレッテさんは、大きな拍手を浴びながら、「世界中の人々に私の国とそこにいる人たちのことを知ってほしい」と話した。・・・色々解釈できる、この言葉には感心させられた！早速タイトルに借用したが、日本の政治家も、時には自信を持ってこのように語ってもらいたいものだ。



メキシコ出身者の優勝は、1991年に続き2回目。(ちなみに最近の他の類似のコンテストでは、2007年ミス・インターナショナル東京大会では、メキシコの、プルシラ・ペラレスさん、同じく2009年もメキシコのアナガブリエラ・エスピノサさんが優勝している)(2010年8月)

- ② 女子プロゴルフ世界ランキング1位のメキシコのロレーナ・オチョア選手が、現役引退を発表した。28歳のオチョア選手は、家族のことや慈善活動に専念したいと、理由を説明している。(2010年4月)
・・・これからも期待していたのに残念だが、引退の理由が良い！

2. 富の世界一・・・凄すぎる

- ① 米誌フォーブスの世界長者番付でトップに立ったのは、メキシコの通信王、カルロス・スリム氏(70)で、メキシコの携帯電話事業会社アメリカ・モビルの株価が1年間で35%上昇し、スリム氏の持ち分の価値が230億ドル(約2兆円)相当になったことで、資産総額が一気に増えたため、米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏を抜いて長者番付のトップに躍り出た。



推定総資産額535億ドル(約4兆6300億円)だという。・・・彼の資産のうち、他国の通信会社を買収したものがあり、その中にはボラッチョ氏が技術協力に従事したものがある。こんなことになるとは予想もしていなかった。(と・ほ・ほ～)(2010年7月)

3. 食の世界一・・・やる事が半端ではない。さすが世界有数の肥満大国

- ① キリスト教徒の祭日のイベントとして、メキシコ市で、長さ720m、重さ12トンの世界最大のパン、

「Rosca de Reyes」が焼き上げられ、中央広場に集まった25万人にふるまわれた。(2010年1月)

- ② メキシコのカンクンで3D映画、「くもりときどきミートボール」のイベントが行われ、そこで調理された**巨大ミートボール**の重さは、2008年にギネスに認定された32.93キログラムをはるかにしのぐ49.5キログラム。(2009年8月)



- ③ 毎年恒例の「トルタ・フェスティバル」において、200人以上が参加し長さ46メートルの、**巨大なメキシコ風サンドウイッチ**、「トルタ」が作られた。トルタは牛肉や、鶏肉、アボカド、七面鳥の肉、トマト、豆、ハム、さまざまな種類のチーズをはさんだサンドウイッチで、具材にはメキシコの辛味ソースがかけられている。(2009年7月)



- ④ メキシコ市で、シェフらが**巨大なチーズケーキ**を作り、ギネス世界記録に認定された。チーズケーキは直径2.5メートル、高さ55センチ、重さは2トンに上るといふ。完成後はおよそ2万人にふるまわれた。(2009年1月)



- ⑤ メキシコのモンテレーで、「**世界一長いホットドッグ**」のギネス記録が更新された。大勢のシェフとボランティアで作ったその長さは、76.23メートル。(2008年10月)

ページ数の関係で、他の項目は次回以降に譲るが、新聞等の片隅にベタ記事として載った、メジャーでないビッグな話題？ 他愛ないことの羅列、あるいは極端から極端の例とも言えなくも無いが、低所得に悩み、街では物乞いや、日々の糧を得る為に懸命に働いている多くの国民がいるなかで、これだけのことが出来る、あるいは実施してしまう余裕にまず驚嘆する。

こんな些細なことも、タイトルのように、国を知ってもらおう一つの事柄と思ったのだが、一種のユーモアさえ感じられる。メキシコで感心するのは、大きなイベントの開催をみても、普段は準備が進んでいるのかどうかも分からず、このままで本当に間に合うのかなどの危惧を感じても、期日までにはそれなりのことは整っていることが多いことである。

ボラッチョ氏はこのことを、感嘆をこめて、「辻褃合わせが上手だ」と常日頃言っているが、隠れたプロフェッショナルが多いという証さともなる。こんなことを考えていたら、ニュアンスは少し異なるが、

「**Más vale ser cabeza de ratón que cola de león**」(マス ヴァーレ セール カベサ デ ラトン ケ コーラ デ レオン と発音し、直訳はサブタイトルのとおりであるが、日本語の諺は、「鶏口となるも牛後となるなかれ」のようなものだろう)という諺が思い浮かんだ。

(余談だが、英語で類似の諺は、ネズミの頭の代わりに、犬の頭であり、「史記」出典の上記鶏口と、何故このように動物の違いが出るのだろうか？・・・民族性の相違??！)

普段は余りあくせくしないように見える国民だが、お国自慢が大好きなうえ、やるからには徹底してやるお国柄が表れているようにも感じられ、まさにピッタシかんかんの諺を思い浮かべたものだと、メキシコ人にならって自画自賛しながら、今日もまたテキーラの杯を重ね、「ビバ ハポン」、「ビバ メヒコ」(日本、メキシコバンザイ)」と両国へ今後の期待を込めて、一人でオダをあげるのであった。(2010年9月12日)